

ビジネス会計検定試験 2 級 過去問ゼミ

財務諸表分析

安全性 (×100 は記載していません) BS の意味を理解しよう

名称	式	内容	備考
流動比率	流動資産 ÷ 流動負債	短期の支払能力	高
当座比率	当座資産 ÷ 流動負債	超短期の支払能力 販売努力除外	高 (流動 - 棚卸資産)
手元流動性比率 (月)	(現預金 + 売目有) ÷ 月商	短期: 売上の何か月分の現金があるか	多 (比率だけど % じゃない)
正味運転資本 (円)	流動資産 - 流動負債	短期	多
固定比率	固定資産 ÷ 純資産	長期投資の安全性	低
固定長期適合率	固定資産 ÷ (純資産 + 固定負債)	長期投資に適合した (長期と長期) 安全性	低
負債比率	負債 ÷ 純資産	長期	低
自己資本比率	純資産 ÷ 貸方計	長期	高
インレストカバレッジレシオ	事業利益 ÷ (支払・社債利息)	事業利益で金融費用まかなえるか	高

事業利益 → 営業利益 + 金融収益 (受取利息配当金 + 持分法投資利益)

インレストカバレッジレシオ: 事業投資から得られる利益 (営業利益) と金融投資から得られる利益 (金融収益) が投資のための資金調達コスト (金利) の何倍あるか (長期分類のようだが、少し微妙か)

収益性 (2 ページ下の図で説明)

名称	式	内容	備考
総資本経常利益率	利益 ÷ 資本		総合性
総資本事業利益率	〃		支払利息は考えない
経営資本営業利益率	〃		本業同士
自己資本当期純利益率	〃	ROE	エクイティイヤー (公平) 平等原則 → 株式
資本回転率	売上 ÷ 資本	投資の何倍の売上? (高)	
売上債権回転率	売上 ÷ 売上債権	回収速度 (多)	
売上債権回転期間	売上債権 ÷ 月商	回収速度 (短)	日商のケースもある
棚卸資産回転率	売上 ÷ 棚卸資産	在庫販売速度 (多)	
棚卸資産回転期間	棚卸資産 ÷ 月商	在庫が何か月分? (短)	日商のケースもある

経営資本 → 総資本 - (建設仮勘定 + 投資その他の資産 + 繰延資産)

自己資本当期純利益率 = 売上高利益率 × 総資本回転率 × 財務レバレッジ

税引後利益 (当期純利益) は配当原資

回転期間は手持月数をあらわす → 売上 10,000 / 月 回収 2 か月後 → 常に 2 か月分の手持ち

CF分析・連単倍率

その前に「フリーキャッシュフロー」とは
 営業活動で得たCFから投資活動に使ったCFを差し引いた「自由に使える」CF
 投資CFは△表示が一般的なので、式としては営業CF+投資CFとなる

名称	式	内容	備考
営業CFマージン	営業CF ÷ 売上高	売上高営業利益率の 補足資料	営業CF分子
自己資本営業CF比率	営業CF ÷ 自己資本	自己資本営業利益率 の補足資料	営業CF分子
営業CF対流動負債 比率	営業CF ÷ 流動負債	期限の近い負債を返 済する為の現金創出 能力	営業CF分子
設備投資額対CF比 率	設備投資額 ÷ 営業C F	固定比率的に考えよ う。	これだけCFが分母 100%超は過剰投資 の可能性
連単倍率	連結 ÷ 親会社個別	利益・売上・資産	企業集団化している メリットの度合い

※設備投資額＝有形固定資産購入－有形固定資産売却

損益分岐点分析

名称	式	内容	備考
変動費率	変動費 ÷ 売上高		
限界利益率	限界利益 ÷ 売上高		貢献利益率
損益分岐点	固定費 ÷ 限界利益率		トントンの売上
損益分岐点比率	損益分岐点 ÷ 売上	低い方が良い	
経営安全率（安全余 裕率）	安全余裕額 ÷ 売上	高い方が良い	安全余裕率

<参考> CMCと大手スクール

CMC (@10,000×100人)	大手 (@50,000×10人)
売上 1,000,000	売上 500,000
10席 1日10回転必要	10席 1日1回転
利益 200,000	利益 200,000
利益率 20%	利益率 40%

席の数も利益は同じだけど、わかりますよね
 薄利多売かブランド重視か？

でも、CMCは単価は安いけれど質の高い講座（ブランド力）を目指しています

1 株当たり分析

名称	式	内容	備考
1株当期純利益	当期純利益 ÷ 発行済株式数		EPS
株価収益率	株価 ÷ EPS	利益と株価	PER
1株純資産	純資産 ÷ 発行済株式数		BPS
株価純資産倍率	株価 ÷ BPS	純資産と株価	PBR
1株当たり配当額	配当総額 ÷ 発行済株式数		
配当性向	配当総額 ÷ 当期純利益	利益のうち、いくらを配当にまわしたか	
配当利回り	1株配当 ÷ 株価	利回りは株に対する配当	短期成果（配当）に期待できるか
株式益回り	EPS ÷ 株価	回りをついたら分母が株価	成長力（利益）に期待できるか
時価総額	株価 × 発行済株式数		

株価収益率 → 株価（将来の予想を反映）、EPS（事実＝確定値）

もともとは、投資した株価を回収するのに何年かかるという考え方。最近では別の考え方。将来の期待が大きいと PER は大きくなる。決して回収に時間がかかるという訳ではない

1人当たり分析

名称	式	内容	備考
資本集約率	総資産 ÷ 従業員数	1人当たりの資産	1人当たりの全社的な投資額
労働装備率	有形固定資産 ÷ 従業員数	1人当たりの有形固定資産	1人当たりの設備投資額（製造業高）